

平成 28 年度第 2 回 大阪市障がい者施策推進協議会

障がい者計画策定・推進部会 議事録

平成 29 年 2 月 6 日（月）14 時～16 時

大阪市役所 7 階 第 3 委員会室

司会（障がい福祉課 森） <開会>
中島障がい者施策部長 <あいさつ>
司会 <出席者紹介、資料確認等>

三田（みた）部会長

- ・ それでは、今から始めたいと思います。
- ・ 膨大な資料がありますが、ご意見は積極的に言っていただければと思います。4 時終了厳守ということですので、円滑な運営にご協力ください。
- ・ 早速、議題 1 「第 4 期大阪市障がい福祉計画の進捗状況について」、事務局から説明をお願いします。

西端障がい福祉課長 <資料 1 について説明>

三田部会長

- ・ ありがとうございます。
- ・ 事務局から説明していただきましたが、委員の皆様から何かご意見・ご質問がありましたら、お願いします。

芦田委員

- ・ 基本指針の目標が 3 つありますが、施設入所者の地域生活への移行や、入院中の精神障がい者の地域生活への移行ということが重点課題になっています。
- ・ 具体的に進めている内容について説明がありましたが、私は精神障がい者の地域移行ワーキング会議に出たり、知的・身体障がいの方の地域移行がどんなふうに進んでいるかということも見聞きします。しかし、今説明されたことが現実的に詳細に進んでいるかということ、全然そんなことはなく、無策に近いような形です。それがやはり、数字にも表れています。
- ・ 地域移行が個別給付になったというところでは、「地域移行したい」というご本人の意思表示からしか始まらないということで、この地域移行の制度そのものに矛盾があると思います。
- ・ また、大阪市として、長期間施設に入所されている方、精神科病院に社会的な入院をされている方は、人権侵害であるというきっちりとした位置づけをしているにもかかわらず、具体的な施策というのがなかなか進んでいません。
- ・ 地域移行という個別給付の問題ではなく、地域にどんなふうに移行してもらえるかということ、大阪市の独自に考えていかないと進んでいかないのではないかと思います。
- ・ 先ほどご説明いただきましたが、現実的にこの 1 年半進んでいるのであればまだしも、進んでいないというのが現状ではないかなと思いますので、あんなにサクサクと説明していただいたのが、私にはすごく違和感がありました。

西端課長

- ・ 地域移行の取組みが無策に近いということで、大変厳しいご指摘を受けております。そういう厳しいご指摘をきちんと受止めて、取組みを進めなければならないと思っております。
- ・ 現行の取組みとしましては、浅い取組みというふうにご指摘いただきましたが、パンフレットを通じた施設入所者の方に対する情報提供や、相談支援事業者の量的・質的な確保、特に各区の自立支援協議会では、相談支援部会の設置等を進めていただいております。
- ・ また、基幹相談支援センターにおけるコーディネート、ピアカウンセリングの養成など、福祉サービスの拡充や、グループホームの設置促進、事業従事者の方々に対する専門分野別の研修の実施等、環境づくり的な取組みに終わっている部分がございます。
- ・ 先ほどのご指摘にもありましたとおり、市地域自立支援協議会でも確認されている課題について、掘下げて具体化していく作業が遅れているということは認識しております。そのような点について、問題意識をもって、取組んでまいりたいと思っております。

三田部会長

- ・ 取組は進めているものの、実態としてはなかなか進まないということでしょうか。
- ・ 芦田委員は、地域自立支援協議会の委員でもありましたか。

芦田委員

- ・ 私は地域自立支援協議会の委員ではありませんが、地域自立支援協議会の委員から話を聞いていますし、精神科病院からの地域移行にかかる地域移行ワーキング会議などに参加しています。
- ・ ワーキング会議は、地域活動支援センターが集まって月 1 回ずつ行っていますが、なかなか進捗がありません。
- ・ 具体的に入院している方へアクセスするところについて、私たちも構えて待っていますが、中心となるこころの健康センターの前さばきがなかなか進まずに、停滞している状況です。
- ・ まだ、精神障がいについては、少なくとも地域移行ワーキングというものがありますが、身体・知的障がいについての地域生活への移行に関する取組みが、具体的な策が何もないということで進んでいない、無策ということかなと思います。

倉町委員

- ・ 資料 1 の 3 ページを見て、地域移行がどうしてもこんなに数が少ないのだろうと思っていました。芦田委員の問題意識と同じかもしれませんが、私は具体論が分からない中で言います。
- ・ 地域移行支援や地域定着支援が、見込み量に対して非常に少ないです。地域定着支援は 27 年度に少し増えていますが、少ないということは援助する方の手がない、もしくは当事者へのアプローチが少ない等、さまざまな要因があると思います。
- ・ そういったことに対して、何か手を打っていかないといけません。
- ・ ぜひそういう働きかけをしてほしいと思いますし、そうしないと数値が上がっていかないと思います。

- ・ 具体的なことは、また別途お聞きするとしまして、今後どういうふうに進めていこうかというようなことが、右下の欄に書いてあるかもしれませんが、アプローチが少ないなら少ななりに、何か手を打っていかないといけないと思います。その点で、ぜひ検討をよろしくお願ひします。

三田部会長

- ・ ありがとうございます。

福田委員

- ・ 各区に地域自立支援協議会がありますが、各区によって部会などの組織が違ってきます。
- ・ 西区では、ようやく相談事業の部会ができました。
- ・ それまでは、全体の中でやっていたので、議題の内容をどれに絞るかも難しい状態でしたが、昨年度から部会で議論するようになってきました。
- ・ 区によっては部会がたくさんあったり、いろいろとご助言もあつたりするそうです。
- ・ 障がいのある方の住んでいる数が少ないという区もあると思いますが、各区の自立支援協議会からなかなか市にあがってこないという点は、私たちの意見が大阪市にあげることができていないということで、いろいろと御迷惑かけているのかもしれませんが。
- ・ その点については、市からもこういうことを議論してくださいというようにお伝えしていただければありがたいと思いますので、よろしくお願ひいたします。

三田部会長

- ・ ありがとうございます。
- ・ ここで解決策が練られるような問題ではないとは思いますが、地域移行が進んでいないということは、おそらく色々なことが絡んでいて、大阪市だけの問題でもないかと思ひます。
- ・ 前回もこういう話をしたと思ひますので、これからまた計画を作ることとは少し違ひかもしれませんが、地域移行促進のために何か手を打たなければいけないというご意見が、ここで出たということは共通認識したいと思ひます。
- ・ 無策に近いということは私もそう思ひますが、何から進めるということ、どこで話し合えばいいのか私も見えていないところがあります。
- ・ 各区から市に上げるというのも1つですが、市が何をやっていくのかということが大事かと思ひています。
- ・ それでは乾委員、お願ひします。

乾委員

- ・ 3つめの福祉施設から一般就労への移行についてですが、一般就労が進んでいるというのは数字でも明白ですし、とても進んでいると思ひます。
- ・ しかし、皆様のご存じのように就労継続支援A型に規制が入って、これからどのような形になっていくかわかりませんが、その就労移行について、企業の求人の数がものすごく溢れ出しています。
- ・ そのため、ものすごい勢いで就職してしまひて、就労移行支援にいく人がいないという状況

が出ており、改善Aのところに書いているような状態ではないかなと思います。この文章に少し違和感を持ったため、意見を言わせていただいております。

- ・ 障がい者就業・生活支援センターと就労移行支援事業所が手を組んでやっているということはあると思いますが、例えば、障がい者就業・生活支援センターに相談に来られた方を就労移行支援事業所に紹介するというような例は、今ほとんどありません。
- ・ 就労移行支援を利用する人が今はいないという状態で、もともと福祉でやっていた就労移行支援が閉鎖していくという状況になっています。
- ・ 就労継続支援A型がこれからどう動くかによって、もしかすると就労継続支援A型の利用者が就労移行支援に戻ってくるということも考えられるかもしれません。
- ・ ただし、就労はものすごい勢いで変わっていますので、それをどのように入れ込むかということは難しいかと思いますが、その点を含めた見通し等を書く必要があると思います。

三田部会長

- ・ P D C AのAが現状と異なるということです。貴重な情報をありがとうございました。

井上副部会長

- ・ 今のご意見も含めて、改善ところであるAについて、大阪市として何に対して、どのような評価をして、何から手をつけないといけないのかということ、今の意見も含めたうえで、ちゃんと整理し直してもらわないといけないと思います。
- ・ 検討していく、とばかり書いており、無策ではないかという話まで出ているなかでAになっていないと思うのですが、これは修正されるのでしょうか。報告したのでこれで終わり、ということなのでしょうか。

西端課長

- ・ 資料1のシートにつきましては、年に1回、成果目標の進捗をご審議いただくためのシートであり、第1回の当部会においてご説明した内容になります。
- ・ 次回の進捗状況のご審議に向けて、いただいたご意見も含めて整理をして、またご審議いただければと思っております。

三田部会長

- ・ また書き直すということでしょうか。

西端課長

- ・ 次回に向けまして、成果目標の進捗状況を整理していきます。

三田部会長

- ・ 次回とは来年ですか。

西端課長

- ・ そうです。次回は来年度に入ってから、平成28年度の進捗状況をご報告します。

- ・ 今回は、平成 27 年度の進捗状況について整理をした資料でございます。
- ・ 私どもの取組みとしてはいただいたご意見を踏まえて進めていきますが、資料 1 の進捗状況の整理につきましては、平成 28 年度の進捗状況で整理をしたいと考えております。

井上副部長

- ・ PDCAということわざわが国が出したのは、年に 1 回きちんと総括をして、次の A であるアクションを整理したうえで次に向かいましょうということだと思います。
- ・ A をきちんと整理しないと、せっかくこういう資料を作っても、意味がないということになると思います。

西端課長

- ・ 文章の表現も大事ですが、取組み状況をご説明して、それに対してご意見やご指摘をいただき、それを踏まえてこれからの取組みにいかしていくということが重要であると思います。

三田部会長

- ・ 先ほどのような情報があれば、次回からいかしていくということですか。
- ・ これは誰が書いているのでしょうか。

西端課長

- ・ 私たち事務局です。

三田部会長

- ・ そうですよ。しかし、先ほどのご指摘のように、現場が刻々と変わっていることもあります。
- ・ 具体的にどうするのかということに記載するべきというご意見ですので、検討していただければと思います。

西端課長

- ・ いただいたご意見を踏まえて、取組みを検討し進めていくということは、常にやっいてこうと思っております。

三田部会長

- ・ ただ、その具体的に何をするかということが、見えないままできてしまっています。
- ・ 地域移行がどんどん進まなくなっていることに対して、皆さんが不安に感じていて、これをどのようにやっていくのだろう、というご意見です。ありがとうございました。
- ・ 次に進みたいと思います。
- ・ 議題 2 「平成 28 年度大阪市障がい者等基礎調査の状況について」、事務局から説明をお願いします。

三田部会長

- ・ ありがとうございます。
- ・ 事前に資料は送らせていただいたかと思います。また、特にご関心があるところについて、おそらく皆さんチェックをされたかと思います。
- ・ 皆さんからご意見とご質問をいただきたいと思うのですが、1つ1つ感想を言っていると、1時間や2時間では終わらないと思います。
- ・ できましたら、これは速報版ですので、今後この項目とこの項目を掛合わせて分析してほしいとか、あるいは文言の意味がよくわからないので、質問を深めるような分析はできないかとか、そのようなご意見をいただけると幸いです。
- ・ ワーキング会議でも皆さんで話し合いをされた結果、無回答が前回よりずいぶん減った部分はすごく成果であったと思いながらも、地域移行等については本当に早くしなければならぬことがよくわかったデータかと思います。
- ・ ご質問、ご意見ありましたら、お願いしたいと思います。

小泉委員

- ・ 医療関係で不安がとても大きいという意見があります。スライド32ページですが、やはりお医者様とのコミュニケーションがとりにくいことであったり、障がいを理由に受診や入院を拒否されたりということは往々にあります。
- ・ ですので、受診につなげていけるような情報提供を、このような調査が終わった後にいかしていただければ、とてもありがたいです。
- ・ 医療というのは命に関わることです。極端な話を言うと、ご高齢のお母さんなら、どうせ行っても見てくれないからということで、結局子どもさんをそのままにしておられるケースもあります。もう少し情報提供として、この医療機関はどうですかというようなことをお願いしたいと思います。

三田部会長

- ・ ご意見ということでよろしいでしょうか。
- ・ 例えば、コミュニケーションがとりづらい方で、医療だけしか利用していないという場合、おそらく、誰にも相談できなくなってしまう。いくつか複数の支援を受けていれば、まだ誰かに相談ができるというようなこともあります。
- ・ 医療については、色々な意見もあるかもしれません。やはり深く見たほうがいいのかもしいと思いました。
- ・ ありがとうございます。他、いかがでしょうか。

井上副部会長

- ・ 今回の調査票Aの回答者について、スライド7ページでは、65歳以上が54.3%と高齢障がい者の比率が非常に高くなっています。

- ・ 気になるのは、スライド9ページ、10 ページにある「これらのサービスを利用していない」が全体で10.1%、そのうち身体障がいの方がクロス集計で13.9%となっています。
- ・ このあたりについて、高齢障がい者と稼働年齢層の障がい者のサービス利用の状況等をクロス集計していただきたいと思います。
- ・ 65歳以上は介護保険を使っているから、障がい福祉サービスについては、特にいない、利用していない、ということなのかと思います。
- ・ そのあたりをもう少しクロス集計して、しっかりと見ていただければ幸いです。
- ・ 今回、介護保険との関係について調べていこうということだったので、この一定の数値は大事なデータだと思います。
- ・ 年齢層については、学齢期と稼働年齢、65歳以上というような目安でクロス集計をしてもらうと、もう少し傾向が出てくるのではないかと思いますので、ぜひその点について、特に高齢の方の利用状況を分析していただきたいと思います。

三田部会長

- ・ ありがとうございます。他の方がいかがでしょうか。

山内委員

- ・ スライド7ページの年齢について、調査票を送った方の年齢構成はわかっていて、そのうちの程度の方が答えられているのか、65歳以上の5割を超えているという状況が、全体の傾向を表しているのかということが、分かるのであればはっきりした方がいいかと思います。
- ・ 何歳の方にどれくらい送ったのかが分かれば、単に高齢障がい者の回答率が高いということか、それとも全体としての傾向であるということか、分かるのではないかと思います。
- ・ 次に、スライド19ページです。「ほとんど外出せずに家にいることが多い」というのは35%で、かなり多いと思いました。一方で、スライド23ページの「一般就労をした経験がある」というのは66%で、この関係に若干違和感を覚えました。
- ・ それだけ社会に参加をされているなら、もっと色々と外出しているのではないかとか、スライド9ページの「これらのサービス利用してない」が10.1%ということで、このあたりの関係についてどう理解すればいいのか、どう分析すればいいのかと思います。
- ・ そこまで分析できるか分かりませんが、そのような点が気になりました。
- ・ 1人暮らしをしている方が多く、あまり外に出られず、制度も利用されず、ずっと家におられるのか。精神障がいの方の率が高い、ということは、データで見えるのですが、知的障がいや身体障がいの方もそういう状態に置かれているのであれば、地域移行との関係で、移行した後の地域のなかで、地域共生社会や地域包括と言われていますが、どういう状況になっているのかと思いました。
- ・ そのようなことが分析できるのであれば、我々も考えなければならない点であり、次の計画のなかで検討していくということになると思いますので、ご検討お願いします。

三田部会長

- ・ ありがとうございます。貴重なご意見、ありがとうございました。
- ・ 他の方はいかがでしょうか。

溝上委員

- ・ 全体として高齢の方が増えているということが、アンケート回収率などにも影響しているように感じたことと、先ほどの日中の主な活動ということも、年齢が65歳以上の方と、ある程度働くことができる年齢の方たちと区別して、出していただきたいと思いました。

三田部会長

- ・ ありがとうございます。
- ・ 乾委員、お願いします。

乾委員

- ・ 皆さんがおっしゃっているように、やはり学齢期と稼働期、高齢期というのは、課題が違うと思いますので、その点でいくつかクロス集計していただければと思います。
- ・ 特に働くなどについての設問がいくつかあると思いますが、学齢期のこれから働くというような方の問題や、稼働期で働けない人たちの問題、あるいは高齢期になられて日中活動等に至っていない方たちの問題は、やはり年齢によって明らかになるとと思いますので、ぜひ分析していただきたいと思います。

三田部会長

- ・ ありがとうございます。
- ・ 芦田委員、お願いします。

芦田委員

- ・ スライド37ページ、38ページの「障がい者施策全般について望むこと」について、「相談支援体制の充実」が17.2%、「夜間・休日・緊急時の連絡・相談支援体制の確保」が16.1%となっています。
- ・ 「相談支援体制の充実」については、地域移行の相談や一般相談、計画相談等ということではなく、おそらくこれは、相談するところをもっと多くあればいいのに、という大きい意味ではないかと思います。
- ・ クロス集計で見ると、身体障がい者のパーセンテージが少ないので、17.2%にとどまっていると思いますが、障がい種別で見ると、かなりパーセンテージが上がっていると思います。
- ・ また「夜間・休日」等についても非常に突出しています。
- ・ これらは、前回なかった項目なのか、前回調査結果のところには全く入っていないのですが、今回突出しているということが、とても印象的でした。

三田部会長

- ・ 前回なかった項目かどうか分かりますか。

障がい福祉課 森

- ・ 「相談支援体制の充実」は、前回でも設定していた項目で、前は18.2%でした。

- ・ 「夜間・休日・緊急時の連絡・相談支援体制の確保」は、今回、地域生活支援拠点等も視野に入れるということで、新たに項目に入れたものです。

三田部会長

- ・ 「無回答」が 18.5%、「特にない」が 14.2%という結果は、どうなのだろうと思います。なかなか分析が難しいです。
- ・ 前は災害時など緊急時の防災対策が 1 番高かったのですが、今回は、所得と相談支援という感じです。
- ・ 全体的にもっと高くてもいいのかなと思いましたが、十数%ぐらいです。
- ・ ありがとうございます。他にはいかがでしょうか。亀甲委員お願いします。

亀甲委員

- ・ 今回の調査結果を見させていただいて、障がい当事者の思いは、ある程度反映されているのではないかな、という気がしました。
- ・ 不安・不便さを感じているところと言えば、交通機関を利用するときのことであったり、高齢になったときの不安であったりということも、ここに反映されていたかと思います。
- ・ 視覚障がい者当事者で一番問題になるのは、移動の問題であったり、それから交通機関の現在の状況であったり、同行援護を利用する場合の時間の問題であるとか、いろいろなことが関わってくると思いますので、ぜひこれを今後の施策に活かしていただくことが大事であると思います。

三田部会長

- ・ ありがとうございます。
- ・ 倉町委員、お願いします。

倉町委員

- ・ 例えば、スライド 37 ページの「相談支援体制の充実」や「所得の保障」を選択された方が、スライド 19 ページの日中活動において、どのような状態にあるのかなど、切り口を少し変えて、クロス集計してみてもはどうでしょうか。
- ・ 「相談支援体制の充実」選んだ人は、日中活動でどうなのだろうとか、医療や就労の状況はどうなのだろう、というような視点でクロス集計していただいたら、違ったものが見えてくるかもしれないと思います。

三田部会長

- ・ ありがとうございます。
- ・ キーワードというか、クロスの軸を変えてみるかどうかということだと思います。
- ・ 他にいかがでしょうか。

福田委員

- ・ スライド 67 ページの「地域移行したいと思うか」という設問で、「施設にいたい」という回

答が多いですが、一方で「親や兄弟と暮らしたい」という回答も多くなっています。

- ・ やはり私たち親もそのような気持ちがありますし、両方の思いがあるのでこういう結果が出ているのかなと思いました。
- ・ どのような障がいの方が、こういう思いをされているのか。地域移行を進めるには、色々と環境整備をしないとイケません。地域の人に理解してもらうことも大切であり、啓発活動も必要だと思います。
- ・ ですから、民生委員のみなさん等に啓発するにしても、どういう障がいの方が、地域での暮らしを望んでいらっしゃるかということがわかると、最初にそのような方から支援していくと、より地域移行が進んでいくのではないかと思います。よろしくをお願いします。

三田部会長

- ・ ありがとうございます。

坪井委員

- ・ スライド 67 ページについて、先ほども言われていたと思いますが、33.2%の方が「ずっと施設にいたい」と回答しています。
- ・ ただし、そのなかにはさまざまな思いがあって、施設がいいとか悪いとかという以前に、それしか選択肢が見えないという現状もあると思うので、その理由等もわかればいいなと思いました。
- ・ この先々ですが、「ずっと施設にいたい」という理由等も知りたいと思いますので、もし可能であれば、そういう調査も行っていただきたいなと思います。

三田部会長

- ・ 30 年間施設にいて、「施設にいたい」と選ぶしかない人は、すでに 60 代、70 代になっている人なのか、この人たちがどういう状況か、そしてその人に対して、施設側は本人に働きかけているのか等の分析が、すごく大事なのだろうと思います。
- ・ ありがとうございます。
- ・ おそらく、他にも気付かれたことがあると思いますが、分析を進めているところですので、またご意見がありましたら、事務局にお伝えいただければと思います。
- ・ さまざまなご意見を、どうもありがとうございました。
- ・ 続きまして、議題 3 について、事務局から説明をお願いします。

西端課長 <資料 3 について説明>

三田部会長

- ・ ありがとうございます。ただいまの事務局から説明について、何かご質問、ご意見がありましたらお願いしたいと思います。

三田（さんだ）委員

- ・ かなり重い医療的なケアが必要な方であったり、さまざまな形で重度の障がいのある方にと

っては、施策はかなり進んではきているけれども、暮らしにくいという状況は未だにあるのかと思います。

- その中で、せっかくこのような計画を立てていただきますので、次期計画を作成するに当たっては、文章を読むように分かりやすいということもあるかもしれませんが、施策そのものがわかりやすい形で示されるということが、非常に重要ではないかなと思います。
- 例えば、書きぶりや内容等の詳細はもちろんまだわかりませんが、ライフステージという言葉を使えば、最初に障がいがあるというような状況に出くわしたときから、どこにどんなふうにしていけばいいのかというようなことや、どこにどう示されるかはこれからだと思いますが、先ほどの調査のなかでも出ていました介護保険を利用するような年齢になったときに、実際どうなっていくのか。ライフスタイル、その暮らしに応じた形でサービスをこんなふうにご利用していく、あるいは医療が必要になったときには、こんなふうサポートされるということがわかるような示し方であったり、そういう形による切り口で、施策を整備するというような視点もあった方が、いいのではないかなと考えております。ぜひともお願いできたらと思います。

三田部会長

- ありがとうございます。
- ご意見ということでいただきたいと思います。
- 他はいかがでしょうか。

井上副部会長

- ご承知のように、放課後等デイサービス及び就労継続支援A型の指導見直しが提案されており、市町村が、今後の放課後デイや就労継続A型について、一定の数値を超えた場合には、認可を認めないことができるというふうな条項が入ると聞いたのですが、そういったものを考慮して、今回の数値目標は設定されるのでしょうか。
- また、スライド14ページに書いてあります、障がい者支援計画の後期計画のなかで、いわゆる重点施策のようなものを今まで打ち出してきていると思うのですが、次の新しい方では、その重点施策のようなものが抜けている感じがします。そのような捉え方はしないということでしょうか。

三田部会長

- 難しいところではありますが、お願いします。答えられる範囲で構いません。

蔵野障がい支援課長

- 今日質問いただきました放課後等デイサービスと就労継続支援A型につきまして、来年4月以降市町村において、必要なサービス見込量を確保できている場合に指定しないことができる規定を設けるという情報は入っております。
- しかし、次期計画の数値で、その制限を踏まえるような形で設定するのかという点につきましては、まだこれからの話になりますので、しっかりと考えていきたいと思っております。
- 今の時点では、このようなお答えしかできず申し訳ございませんがよろしくお願いいたします。

三田部会長

- ・ ありがとうございます。
- ・ 2点目についてはいかがでしょうか。

西端課長

- ・ スライド14ページ、点字版18ページでございますが、今回は障がい者支援計画の第3部において、重点的に取り組む施策を盛り込んでおりました。
- ・ 項目として、1つ1つ何を重点的に取組んでいくか、その議論が大切になると思います。
- ・ 今回はそういうことも含めて、計画に落とししていくかということも、さまざまご意見をいただきながら、進めていきたいと思っております。
- ・ 1つ1つが大切な課題だと思っておりますので、なにを重点的に取扱っていくか、よくご意見をいただきながら考えていかないといけないと思っております。

井上副部会長

- ・ 盛り込まないわけではない、ということですね。

西端課長

- ・ 前回、重点的に取り組む施策について、それを計画のなかに項目立てしなかったという経過も振り返ったうえで、またご議論をお願いしたいと思っております。

三田部会長

- ・ よろしいですか。
- ・ おそらく、ここで以前話したような気がするのですが、そういう捉え方ではなくというように作ったかと思えます。
- ・ また、もし地域移行を重点施策にするかどうかも含めて、そういう可能性もあるかのように聞こえました。
- ・ 中島部長、お願いします。

中島部長

- ・ 重点施策につきまして、昔は計画のスパンが長く、10年間のなかで、数年で何を重点として進めていこうかということを決めておりました。
- ・ 現在の計画は6年スパンであり、3年で中間見直しを行うことになっておりますので、特段これを重点施策としなくてもいいという議論が以前あったかと思えます。
- ・ 放課後等デイサービス・就労継続支援A型の事業者数に、制限を設けるかという点は、別の議論であり考える必要があると思っておりますが、計画では利用人員の見込みを盛り込むことになっており、基本的にはニーズに応じてサービス量を確保しなければならないと思っておりますので、その点についてもご議論いただければと思っております。

三田部会長

- ・ ありがとうございます。
- ・ 時間が少なくなっていますが、よろしいでしょうか。
- ・ ワーキング会議を開催するということで、みなさん前回 10 回も開催したということは、ご存知でしたでしょうか。真夏のワーキングという印象がぬぐえないのですが、10 回はやめませんか。コンパクトに集中して議論できればいいかと思います。
- ・ まだもう 1 つ議題がありまして、その他ということで、「手話に関する施策の推進方針」についてお願いします。

西端課長 <資料 4 について説明>

三田部会長

- ・ この議題について、何か聞きたいということがありましたら。中身については、各自ご覧いただければと思います。
- ・ 時間もキッチリになってしまいましたが、本日予定されております議題は全て終了したということで事務局にお返ししたいと思います。
- ・ ありがとうございます。

西端課長 <あいさつ>

司会 <閉会>